

令和6年度「一市町村民会議一運動」活動紹介

岐阜市青少年育成市民会議

第4ブロック市民会議の取組を中心として

◆第4ブロック

岐阜市の南西部エリアで、加納東・茜部・市橋・鏡島・厚見・三里・加納西・鶉・日置江・柳津の10地域で構成している。ブロック内には、10の小学校と5つの中学校がある。国道21号線、岐阜環状線などの主要道路が通り、JR東海道本線の岐阜駅、西岐阜駅があり、交通の便がよいところである。以前から商業地域・住宅地域として発展し、現在も一戸建てやマンションなどが増加し、児童生徒数が増えている地域が多くある。

また、中学生ボランティアなどを位置づけながら、各地域やブロックで多くの事業を関係団体と連携し、活発に活動している。

1 4BL 青年国際交流会(ブロックの特色ある活動)

「外国人との交流を通して、異なる文化を知るとともに自分たちの国や地域のよさを見つめ、互いに尊重し合い、理解し合って生きることのすばらしさを体得する」を目的に開催している。今年度は、岐阜大学の協力を得て、インドネシア教育大学と民族楽器「アングルン」の演奏を通して交流した。アングルンは、2本の竹筒を利用した打楽器で、1つの楽器で1音しか出せないため、参加者全員で、指揮者のハンドサインに合わせて演奏した。参加した高校生からは、「初めて触る楽器だったが、みんなで演奏することで楽しい時間になった。」という感想があった。



昨年度は、講師にヨルダンやウガンダなどで活動された「JICA 青年海外協力隊」の方を招聘して行った。食や文化・工業など、厳しい状況の中に生きる人々の生活を知り、共に生きることのすばらしさについて、参加した中高生のみならず、運営する役員においても深く考える機会となった。

2 4BL 健全育成研修会

11月の「秋のこどもまんなか月間」(こども家庭庁)に合わせ、「地域で輝く中学生」をテーマに、地域内の中学校5校から10名の中学生が参加し、ボランティア体験から学んだことを発表した。中学生からは、「地域の皆さんのボランティア精神に感銘を受けた。」「アクシデントにも対応できるようになり、それが日常生活での支えになっている。」「地域の方からの声かけに勇気をもらい、地道な活動を継続している。」「感謝のことばなどに対して、役割をこなすだけでよいものかと考え、自分の考えをもって取り組みたいと考えるようになった。」といった、学校生活だけでは味わうことのできない貴重な体験から、自分の成長を実感する意見が多くあった。生徒一人一人の体験から実感するボランティア活動の意味は、説得力のある質の高いものだった。



3 4BL 子育てを考える講座・親子ふれあい教室

子育てを考える講座は、ブロック事業として年2回開催している。1回目はブロック全体に募集を案内し、25組52名の参加があった。講師にフリーアナウンサーの浅井彰子氏を招いて、「絵本の読み聞かせ」を中心に実施した。2回目は各地域で開催している「親子ふれあい教室」から学び、交流する家庭部会の研修会として実施し、今回は、加納東公民館に親子8組16名と役員17名が参加し、講師に高井洋子食育指導員を招いて、

「加納東 さつまいもから学ぶ」をテーマに開催した。

また、今年度は、地域安全推進課から交通指導員が派遣され、交通安全教室を市内8地域でチャイルドシート正しい装着方法などについて講話があった。次年度以降も継続して実施する予定である。

◆ 第51回岐阜市「家庭の日」推進大会



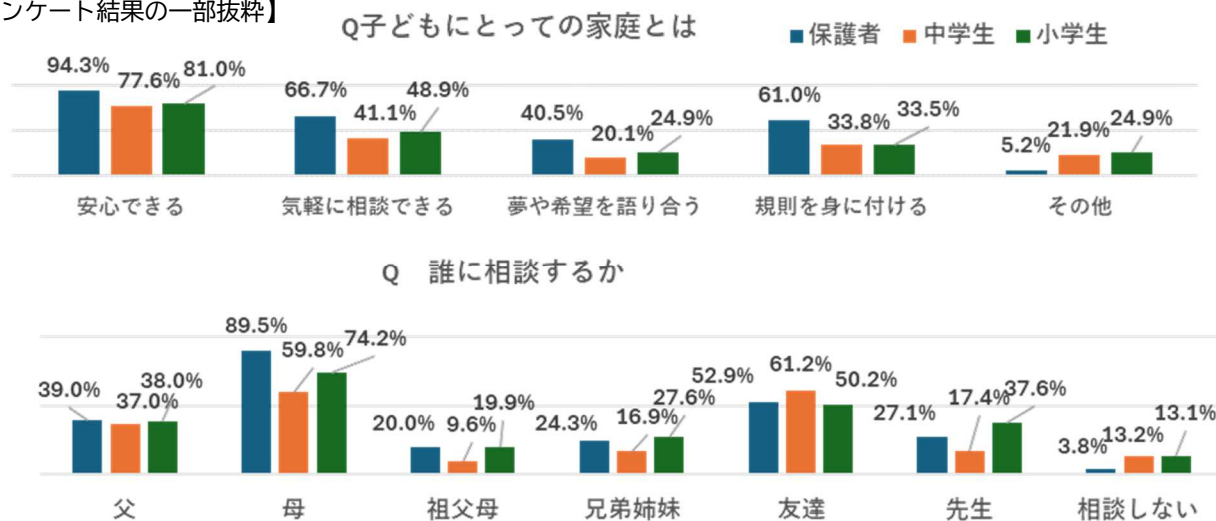
本市では、1月を「明るい家庭づくり運動強調月間」とし、その一環として「岐阜市『家庭の日』推進大会」を5つブロックの輪番で毎年開催している。今年度は、50地域から市民会議の会員以外の保護者など、総勢約300名が参集し開催された。

開会にあたって会長である市長からは、イギリスの精神科医ボウルビーが確立した“愛着理論”について、自身の幼稚園での読み聞かせ活動を例に、赤ちゃんと保護者との愛着(慣れ親しんだ物事に深く心を引かれ、離れがたく感じる事)の重要性について話があった。

第3ブロックの小中学生とその保護者を対象に実施した「家庭の日」に関わるアンケート結果をもとに、5つのブロック混合でグループを編成し、市議会文教委員長、市PTA連合会長、市小中学長会長も交えて活発な意見交換が行われた。

大会を総括して教育長からは、「地域はどう声をかけるのか」について、作家井上ひさし氏の「ふふふ」の中で、万引きが見つかった時の書店のおばあさんの対応を例に、個を尊重しつつ「育てる」という視野で対応を考えていきたいと話された。その後、大会宣言が全会一致で承認され、大会は閉会した。

【アンケート結果の一部抜粋】



4 「青年ボランティア人材バンクCONNECT」



【Community】
地域社会が受け皿となり
【Human】
人と人がつながり 青
【Future】
未来を築いていこう

人と人とのつながり方は多様化し、顔を合わせたつながりが希薄化してきている。また、SNSによる犯罪、DV、ニート、引きこもり、ヤングケアラーなど、少年を取り巻く問題は益々深刻化し増加している。中学校時には、ボランティアとして活躍した子も、

高校生になると疎遠になりがちで。



そんな中、地域の青少年は今後の社会にとって、様々な場面で益々重要な存在となっていくものと思われる。そこで、高校生以上の若者が多くの人と顔見知りになり、安心して笑顔でいられる居場所をつくることを願って立ち上げた。「できるときに」「できそうなことを」「自分で決めて参加」できるボランティア活動の場を提供しつつ、持続可能な市民運動となることを期待している。